

【様式①】令和6年度 学校評価書(小・中・特別支援)

学校名 岐阜市立日野小学校

校長名 永井 浩司

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間と「ぎふMIRA」において、地域や岐阜市の人・もの・ことを主体的・探求的に学べるよう授業改善を図る。 授業では、ICT機器を活用しながら互いの考えや意見を交流・共有、さらに深化できるよう、協働的な学びのあり方を探り、児童の思考力・判断力・表現力等を育てる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生活科や総合的な学習の時間において、地域の資源を見直し、人・もの・ことに積極的に関わった教育課程を再編成し、現地での学びの充実を図った。 保護者の学校評価では、「『確かな学力の育成』について学校は努力している」と92%の回答が得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の魅力を体験として学習できる児童は、恵まれている。小・中9年間を見通して、各学年でのねらいや学習内容等を練り、教育課程を編成する必要がある。 タブレット端末の上手な活用の仕方を工夫しながら、仲間との学び合いに活かしてほしい。 英語の学習では、生の英語に触れる機会を多くもち、さらに英語力を高めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> どの学年も総合的な学習の時間の年間カリキュラムを見直し、地域や岐阜市の人・もの・ことを主体的・探求的に学び、生き方指導に結び授業改善を図る。 話す力を一層伸ばすために、朝活で話し合い活動を取り入れる。 算数科において授業研究を行い、子ども主体の学びを生み出す授業改善に取り組む。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 地域と学校、PTAとの連携を図り、豊かな活動や学習を仕組むことで、児童の地域への愛着を育む。 幼保小、小中において教員同士の交流の機会を設け、お互いの指導を学び合い、児童の学びのギャップ解消につなげる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 夢づくり事業や放課後チャイルドコミュニティ事業、食育農業体験を通して、児童は、多くの地域の方と触れ合い、豊かな体験の機会が得られている。 幼保小の連携では、年長児と1年生の直接交流、学校運営協議会での保育園職員による参観と意見交流を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 夢づくり事業や日野っ子メイツ、食育農業体験等を通じて、地域と関わりながら学ぶ機会を継続する。情報を地域に発信し、浸透するとさらに連携が図りやすくなる。 幼保小、地域の方との交流の機会によって、地域の連携や強化につながっている。児童が安心して過ごせる地域作りを進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者ボランティアを募って人材を確保し、児童の教育活動を一層充実させるとともに、保護者へ教育活動への参画を促す。 夏季休業日等、近隣の保育園に依頼し、保育指導を学ぶことで、就学児のギャップ解消につながるよう、職員研修を仕組む。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 若手教員の育成のため、学年や学年部、指導部会など、同僚性を発揮しながら、意見を伝え合い、一人一人のよさが活きる職員集団をめざす。 研修主事を中心として、研修を計画、実施し、教職員同士の学び合いを推進する。 行事の内容等の精選を図り、職員の負担軽減を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ベテラン教員は、若手教員をリードしながら、学年経営や校務分掌の業務にあたることができた。分からないことは、気軽に訊いたり、気付いたことを言い合えたりする雰囲気があり、学び合いにつながった。 夏季休業日を中心に、必要な学びを適宜研修することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> どの職員も真剣に生き生きと児童に向き合いながら授業をしている。研修や職員同士の交流等が図られていいることが伺える。 働き方改革をはじめ、教職員に魅力が感じられる職場づくりが急務である。教育の質を低下させないためにも、日頃からの研修は必要である。教職員同士の学び合いや職員の負担軽減に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員同士の親和性や同僚性を一層発揮できるように、職場環境を整える。 研修主事が中心となって、職員の研修ニーズをつかみ、外部研修を活用しながら、校内研修を計画的に行っていく。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に具体的事案を共有し、職員一人一人の危機管理意識を高め、安全な教育環境をめざす。 児童の思いやりの心の醸成に努め、いじめ等生徒指導事案に、チームで即対応する。 命を守る訓練や不審者対応訓練等のあり方を見直し、児童自身が自分の命を自分で守る意識を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 打ち合わせ等を活用し、具体的な事案を共有したり、危険箇所を見直したりしながら、職員の危機管理意識の高揚を図った。 生徒指導事案に、相談し合いながら、チームで対応することができた。 命を守る訓練年4回と連れ去り防止教室を実施した。実施に当たって、職員の共通理解を大切にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のいじめ防止の活動や「そらいろのたね宣言」「かがやき見つけ」を継続して指導を進めてほしい。 日野地区は、特に水害時に避難するところが限られてくる。防災においては、日頃の意識や訓練が必要。判断して行動をとることができるよう、家庭や地域、中学校と連携して取り組みを進めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ここたん」を有効活用しながら、日常的に児童の些細な変化を見逃さず、さらに心に寄り添った対応に努める。 再度、本校の実情に合った安全教育の在り方を見直し、実際の場面で児童の安全をいかに守れるか、職員自身にとっさの判断と行動ができるよう意識を高めて訓練する。煙体験など、防災学習を充実させる。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検を確実にし、校内外と連携して施設整備をすすめ、教育環境を整える。 複数の目で、確実に財務管理を行い、不備のないよう徹底する。 事務職員を中心として、計画的に備品や消耗品を整備する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 施設の安全点検を行い、校内対応、外部対応を見極め、児童に安全で快適な環境を提供できるように努めた。学校予算内で行える修繕箇所は、優先順位をつけ、計画的に実施した。 事務職員を中心に、複数の目で財務管理を行った。 職員の声を反映し、必要な備品や消耗品を計画的に整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校施設の老朽化が進んでいる。内部施設や水道管、ガス管等については、不十分に思われる。毎月の安全点検や校舎巡回による早期発見に心がけてほしい。 年間予算で高額な物の購入は難しいと思うが、計画的に予算組みし、整備してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、全職員による毎月の環境点検を行い、安心・安全な教育環境の整備に努める。 学校施設の老朽化により毎年各所の修繕が必要となる。先を見通し、計画的に要望していく。

HPアドレス: <https://gifu-city.schoolcms.net/hino-e/>